

自ら学び、確かな学力の定着を図る指導法の研究

～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善～

あいさつ

深谷市教育委員会教育長 小柳 光春

深谷市立幡羅中学校におかれましては、平成29・30年度の2年間にわたり、深谷市教育委員会の研究委嘱を受け、『自ら学び、確かな学力の定着を図る指導法の研究～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善～』を研究主題として研究を進め、その成果をここに発表されますことに、心から敬意を表します。

深谷市教育委員会では、郷土の偉人渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育を推進するために、「立志と忠恕の深谷教育プラン～第2期深谷市教育振興基本計画～」を策定しました。その中では、「確かな学力と自立する力の育成」を基本目標に掲げ、「未来を切り拓くための確かな学力の育成」を図るために、各学校が創意工夫ある教育活動を展開できるよう努めているところです。

幡羅中学校では、自校の特色を活かしながら、生徒の学習効果を高める教育活動の工夫や、考えを深められる対話型の学習形態を取り入れた授業実践に取り組んでいただきました。これらの取組により、生徒に基礎・基本を確実に定着させるとともに、学習意欲を高め、学力向上の大きな成果に結びついたと確信しております。

各校におかれましては、本研究の実践と成果を自校の教育活動の更なる充実につなげていただくことを御期待申し上げます。

結びに、幡羅中学校の研究に際し、御指導、御支援をいただきました先生方に厚く御礼申し上げますとともに、島崎校長先生をはじめ幡羅中学校の先生方の御努力と、様々な面において支えていただきました保護者、地域の皆様の御支援に深く感謝申し上げます、あいさつといたします。

深谷市立幡羅中学校長 島崎 祐子

平成29、30年度にわたり、深谷市教育委員会より研究委嘱をいただき、「自ら学び、確かな学力の定着を図る指導法の研究～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善～」を研究主題として全ての教科において研究に取り組んでまいりました。折りしも学習指導要領の改訂を迎え、改めて「知識及び技能」、「思考、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力の育成を目指すことが求められています。本校の研究の最大の特色は、①「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善をいかに進めるかです。さらにその土台として②「非認知能力（自制心、自己効力感、勤勉性、やり抜く力）」を向上させることで学力を向上させる。③「学級経営」がよいほど「主体的・対話的で深い学び」の実現がしやすく、生徒たちの「非認知能力」「学習方略」が伸びるといふ、埼玉県学調の分析結果にそって研究を進めて参りました。本校の研究では「授業改善」はもとより「学級経営」「各学校行事や部活動等」の充実は不可欠であり教育活動全体での研究となっております。本日はその取組の一端を発表させていただきます。

結びにあたり、本研究の推進にあたり、ご指導・ご支援をいただきました深谷市教育委員会の先生方をはじめ多くの先生方に厚く感謝申し上げます、挨拶と致します。

平成30年11月15日(木)
深谷市立幡羅中学校

1 研究主題

自ら学び、確かな学力の定着を図る指導法の研究 ～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善～

2 主題設定の理由

学習指導要領の改訂によって、教科をこえて育成すべき資質や能力の三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を踏まえ、全ての教科において、授業を改善していく必要がある。全ての教職員で「何のための学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有する。「どのように学ぶのか」については主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して授業の質を高め、「何ができるようになるか」では、生徒に身につけさせたい資質・能力を育むことが求められている。

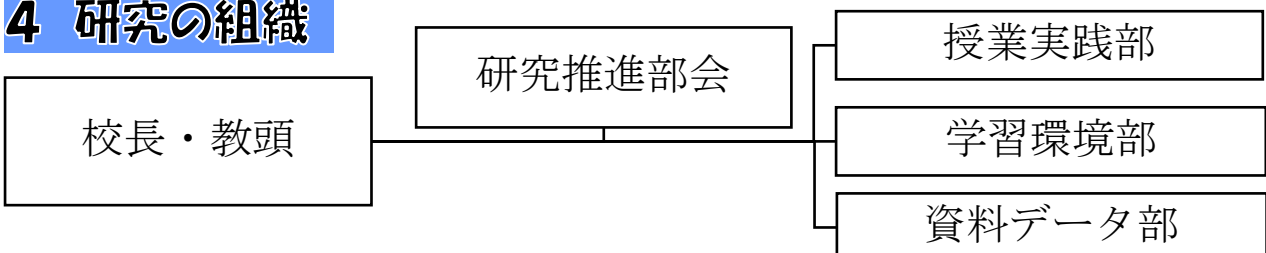
本研究を通して、次の時代に生かせる学びを目指して、全ての教科で主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行い、本校としてのスタイルを確立していくことを目指したい。

3 研究の仮説と手立て

	仮説1	仮説2	仮説3
内容	複数の基礎的・基本的な知識・技能を組み合わせ活用することをねらった課題を意図的に単元に設定し、生徒に身につけさせたい知識・技能を整理しながら授業実践を行っていくことで、生徒の多面的で深い理解につながるのではないか。	他者との協働・相互作用をねらった課題を意図的に単元に設定し、対話的な学習形態を導入することで、生徒の主体性や学ぶ意欲を伸ばしたり、対話的で深い理解につながったりするのではないか。	基礎的・基本的な知識・技能の定着や習得を、家庭学習を中心に進めることで、授業において活用や探究を念頭に置いた深い学びを実践することができるのではないか。
手立て	○単元のゴールから全体を設計する ○身につける内容のつながりを考える	○意図的な発問で生徒の思考を促す ○考えを人に伝えたい場面の設定 ○考えを交換しやすい形態を工夫する	○深谷市授業スタンダード ○既習事項の振り返り ○毎時間の振り返り ○家庭学習の充実

* 埼玉県学調の分析結果から、①「非認知能力（自制心、自己効力感、勤勉性、やり抜く力）」を向上させることで学力を向上させる。②「学級経営」がよいほど「主体的・対話的で深い学び」の実現がしやすく、生徒の「非認知能力」「学習方略」が伸びる、という視点で研究を進めてきた。生徒の非認知能力を高めることで学習効果がさらに高まると仮説を立て、非認知能力を高めていく手立てを、上記の仮説・手立てとともに、重要なポイントとして、教育活動全体を通して研究してきた。

4 研究の組織



5 研究構想図

学校教育目標 高く志を抱き、心豊かにたくましく生きる生徒の育成
 研究主題 自ら学び、確かな学力の定着を図る指導法の研究

「何ができるようになるか」
 生徒に身につけさせたい資質・能力

「何を学ばせるか」
 学習内容の整理(仮説1)

「どう学ばせるか」
 主体的・対話的で深い学び(仮説2)

単元目標	学習内容	単元の学習で身に付けたい資質・能力
① 2次関数 $y=ax^2$ ② $y=ax^2+bx+c$ で表される放物線について学習する ③ $y=ax^2$ のグラフに類似し、 x と y の関係が $y=ax^2$ に類似する	● 2次関数 $y=ax^2$ のグラフの形状を調べ、 x と y の関係が $y=ax^2$ に類似する ● 2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの形状を調べ、 x と y の関係が $y=ax^2$ に類似する	● 2次関数 $y=ax^2$ のグラフの形状を調べ、 x と y の関係が $y=ax^2$ に類似する ● 2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの形状を調べ、 x と y の関係が $y=ax^2$ に類似する



単元デザイン

主体的・対話的な学び

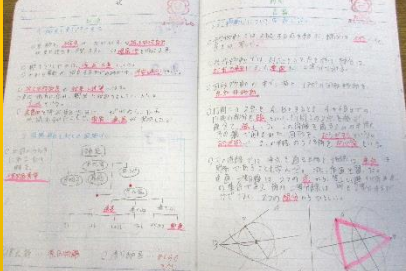
- 単元のゴールから全体を設計する
「パフォーマンス課題の設定」
- 身につける内容のつながりを考える
「既習内容の見通し」

- 意図的な発問で生徒の思考を促す
「練り上げ型の設定」
- 考えを人に伝えたい場面を設定
- 考えを交換しやすい形態を工夫する
「対話型の学習形態」

基礎・基本の定着

仮説3：学びの定着
 学びの土台づくり

- 既習事項の振り返り
- 毎時間の振り返り
- 家庭学習の充実
- 「課題提示の工夫と自主学ノート」
- 「深谷市授業スタンダード」



深谷市 授業スタンダード

1 授業の目標（ねらい）を提示する！

導入

- 本時の目標を明確に示しましょう。
- 異体物を用意したり、ICT機器を使ったり子どもが課題をとりえやすくするとともに、意欲がわく課題の提示を工夫しましょう。
- 授業の流れを見通す活動を取り入れましょう。

2 自分で考える活動を確保する！

非認知能力の育成

生き生きと活躍できる学校

- 何事にも粘り強く、意欲的に取り組む生徒
- 達成感・自信を持ち生き生きと活動する生徒
- 「日本一を目指すあいさつ運動」「くつそろえ運動」「全身で表現できる合唱」「熱心な部活動」
- 「地域に感謝・貢献・元気プロジェクト」「学級対抗行事で高める団結力」
- 「補充学習の充実」「生徒の活躍が見える掲示」
- 「1人1人の活躍を認め合える学級経営」



6 各部の取組

主体的・対話的で深い学び

【 授業実践部の取組 】

の実践

- ①単元デザイン ②練り上げ型の設定 ③対話型の授業形態
④深谷市授業スタンダードの活用

単元デザインの見通し

単元のゴール(パフォーマンス課題)から単元全体を見通す。

単元デザイン(単元目標)	単元を通して特に高めたい力
①式が $y = ax^2$ で表される関数について学ぶ ② y は x の 2 乗に比例し、 x と y の関係が $y = ax^2$ で表される ③ 3～5 時間目 関数 $y = ax^2$ のグラフ ④ 関数 $y = ax^2$ をグラフに表し、その特徴について調べよう ⑤ 放物線という、頂点は原点で、 y 軸で左右対称となるグラフで、比例定数の値によって、グラフの現れる場所や向きが決定する ⑥ 6 時間目 関数 $y = ax^2$ の値の増減と変換 ⑦ 関数 $y = ax^2$ の値の変化の様子について調べよう ⑧ $x < 0$ 、 $x = 0$ 、 $x > 0$ のときに分けて考えると、増減や変換の様子が変わる ⑨ 7・8 時間目 関数 $y = ax^2$ の値の変化の様子を、表やグラフで表現しよう ⑩ 関数 $y = ax^2$ の値の変化の様子を、表やグラフで表現しよう	① 学習目標 ② まとめ ③ 1・2 時間目 関数 $y = ax^2$ ④ 式が $y = ax^2$ で表される関数について学ぶ ⑤ y は x の 2 乗に比例し、 x と y の関係が $y = ax^2$ で表される ⑥ 3～5 時間目 関数 $y = ax^2$ のグラフ ⑦ 関数 $y = ax^2$ をグラフに表し、その特徴について調べよう ⑧ 放物線という、頂点は原点で、 y 軸で左右対称となるグラフで、比例定数の値によって、グラフの現れる場所や向きが決定する ⑨ 6 時間目 関数 $y = ax^2$ の値の増減と変換 ⑩ 関数 $y = ax^2$ の値の変化の様子について調べよう ⑪ $x < 0$ 、 $x = 0$ 、 $x > 0$ のときに分けて考えると、増減や変換の様子が変わる ⑫ 7・8 時間目 関数 $y = ax^2$ の値の変化の様子を、表やグラフで表現しよう ⑬ 関数 $y = ax^2$ の値の変化の様子を、表やグラフで表現しよう

単元の各時間における課題とまとめ。単元全体の見通しを持ちながら、各時間の指導に当たれるようにする。

練り上げ型の設定

尊重型	順位型
考えの特徴に着目させて、さらに深めさせる。	考えを比較し、最も有効な考えに気付かせる。
集約型	分類型
考えの共通性に着目させ、1つにまとめさせる。	考えを分類し、その関連に気付かせる。

「練り上げ」とは、生徒が自力解決で得た考えを集団の中で確認、共有し、さらに比較、検討する学習活動のことである。

対話型の授業形態



協動的に新たな考えを見つけ出そうとする。



考えた意見(伝えたいこと)を伝え合う。

	個人学習	ペア学習	グループ学習
長所	<ul style="list-style-type: none"> じっくりと問題に向き合うことができる。 ノートに自分の考えを残すことができる。 できる問題とできない問題がはっきりわかり、解けたときには自信がたつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 2人で相談しながら考えることができる。 伝え合う必要があることで、表現する必要性が生まれる。 協力して考えたり発表する機会をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを出しやすくなる。 話し合いながら問題を解決する力がたつ。 グループで教え合うことで苦手な子どもも理解することができる。 グループで解決したという安心感が生まれる。
短所	<ul style="list-style-type: none"> 解決の時間差が生じる。 苦手なことは解決できずに終わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 能力差が大きい場合、1人に任せがちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が話し合いに参加できない場合がある。 話し合うので時間がかかる。

深谷市授業スタンダードの活用

深谷市 授業スタンダード

- 授業の目標(ねらい)を提示する!**
 - 本時の目標を明確に示しましょう。
 - 具体物を用意したり、ICT機器を使ったりするなど子どもが課題をとらえやすくするとともに、意欲がわく課題の提示を工夫しましょう。
 - 授業の流れを見通す活動を取り入れましょう。
- 自分で考える活動を確保する!**
 - 活動時間を十分に確保しましょう。
 - 既習内容を活用したり、教材(本文、資料など)を根拠にしたりして、自分の考えを表現させましょう。
 - 教師が、指示やヒントを何度も出すことはひかえましょう。
- 仲間と学びあう活動を取り入れる!**
 - 友達と考えを共感的に受け止める学習集団を育みましょう。
 - 自分の考えを他の人にわかりやすく伝えることを意識させましょう。
 - 本時の目標を達成するために必要な考えや意見を取り上げましょう。
 - 発表して終わりだけでなく、子どもたちが考えを比較検討したり、考えを高めあうような話し合いができるように工夫しましょう。(※参照)
- 学んだことを実感させる!**
 - 本時の目標にたどり着いて、授業の心りかえりましょう。
 - 子どもたちが、授業で「わかったこと」「できるようになったこと」を実感できるようにしましょう。

【 学習環境部の取組 】 **非認知能力の育成**
 自制心・自己効力感・勤勉性・やり抜く力

日本一のあいさつ運動と Happy Wednesday



くつそろえ運動



大きなあいさつが規律
と自信につながる

美しい環境で
美しい心は育つ

活躍を認め合い、
次への意欲へ

生徒の活躍が見える掲示(職員室前)



熱心な部活動



女子バスケットボール
男子バスケットボール
ソフトボール
男子バレーボール
女子バレーボール
男子バスケ陸上競技
女子バレーボール
女子バレーボール
男子バレーボール
女子バレーボール
男子バレーボール
女子バレーボール



何事にも本気！
幡羅の原動力

地域と一体 コミュニティ・スクール

地域へ感謝・貢献・元気プロジェクト(サクラソウを地域へ・中山道 CC)



〇〇杯とは、
クラス対抗全
員縄跳び、駅
伝、漢字や数
学の計算問
題など

活躍を認め合える
学級経営



補充学習の充実



学級対抗行事

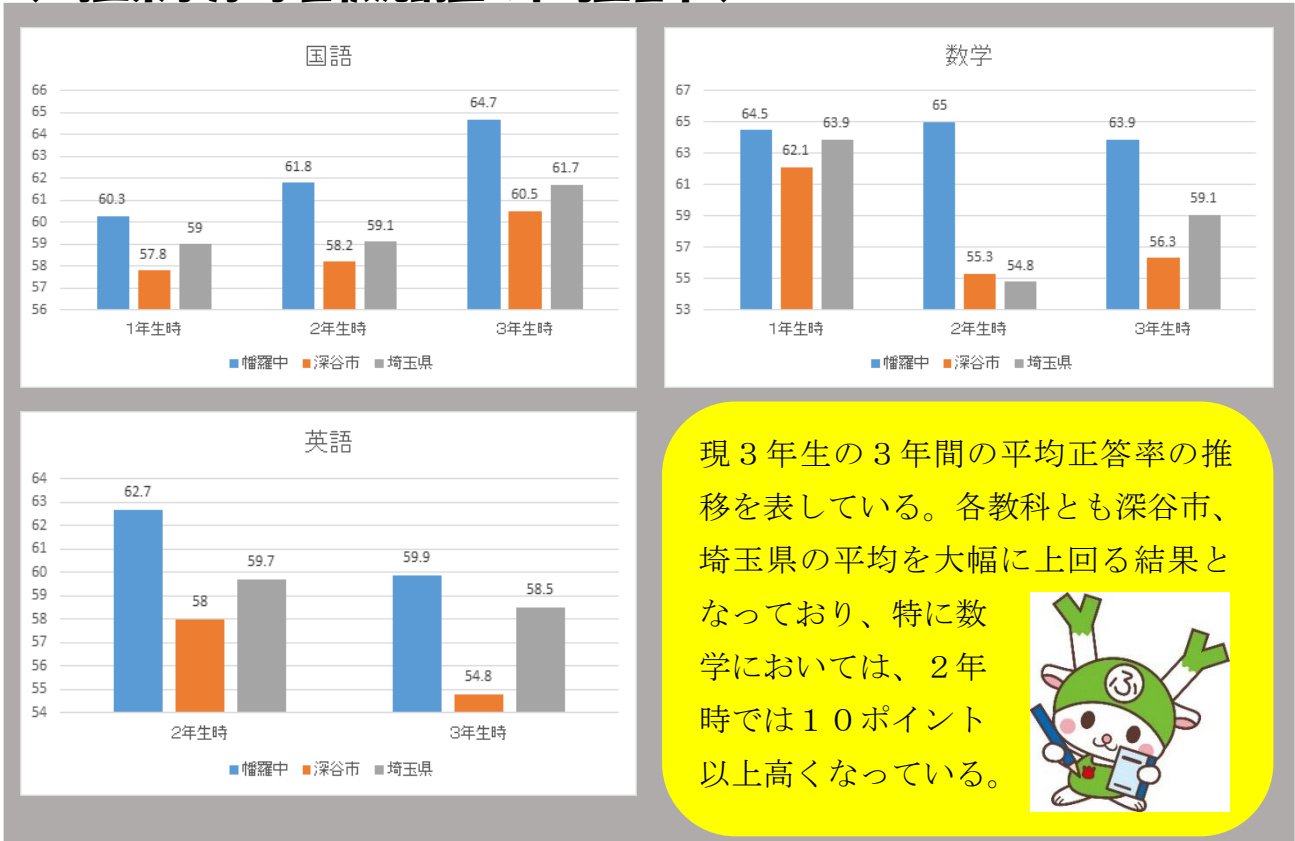
(体育祭・音楽会・〇〇杯)



【資料データ部の取組】

資料データ部では、生徒の実態を把握するために、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果や、生徒・保護者アンケートの結果の分析を行った。

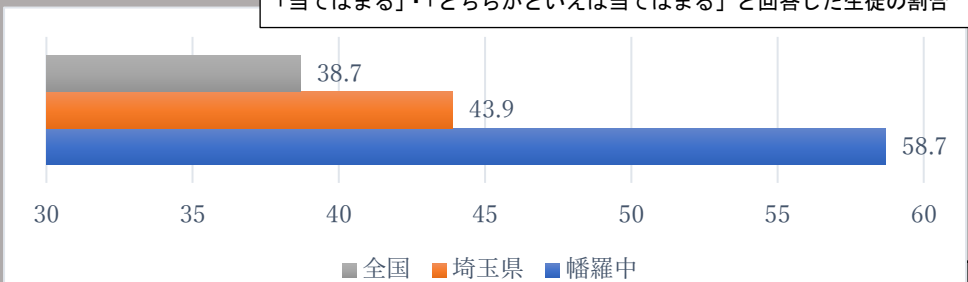
◇埼玉県学力・学習状況調査の平均正答率◇



(1)平成30年度全国学力・学習状況調査より

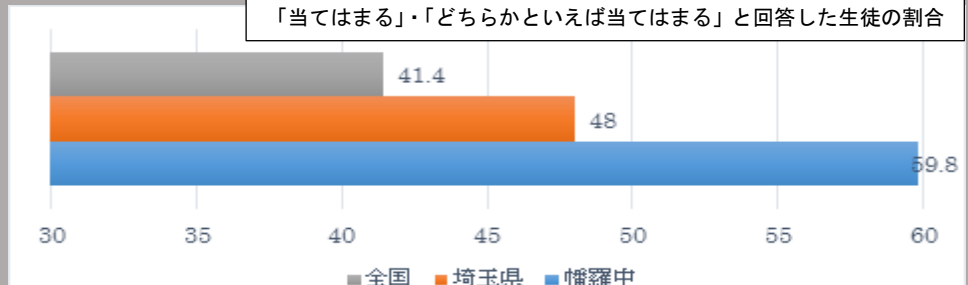
『数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。』

「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合



『理科の授業で自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか。』

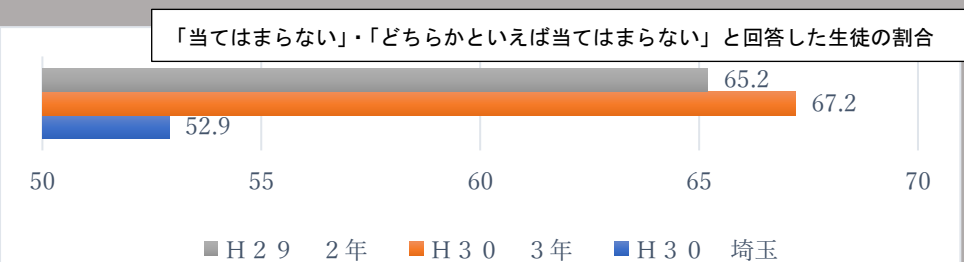
「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合



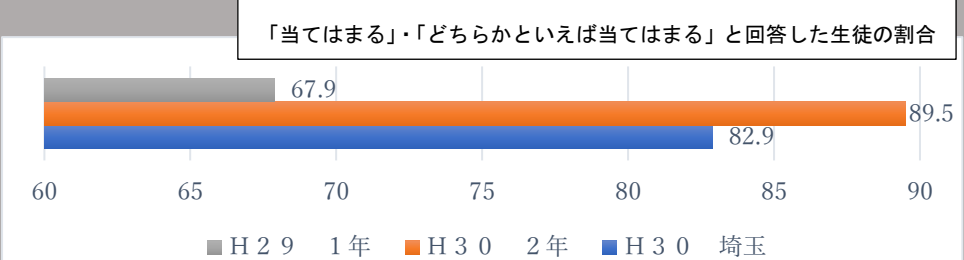
各教科において授業の指導方法や形態の工夫を行った結果、既習事項を日常生活の事象の中で活用しようとする力や、自分の考えを自分の言葉で説明する力をつけることができている。

(2)平成30年度埼玉県学力・学習状況調査より

『きちんと話を聞かなければいけないときにぼんやりしていた。(自制心)』



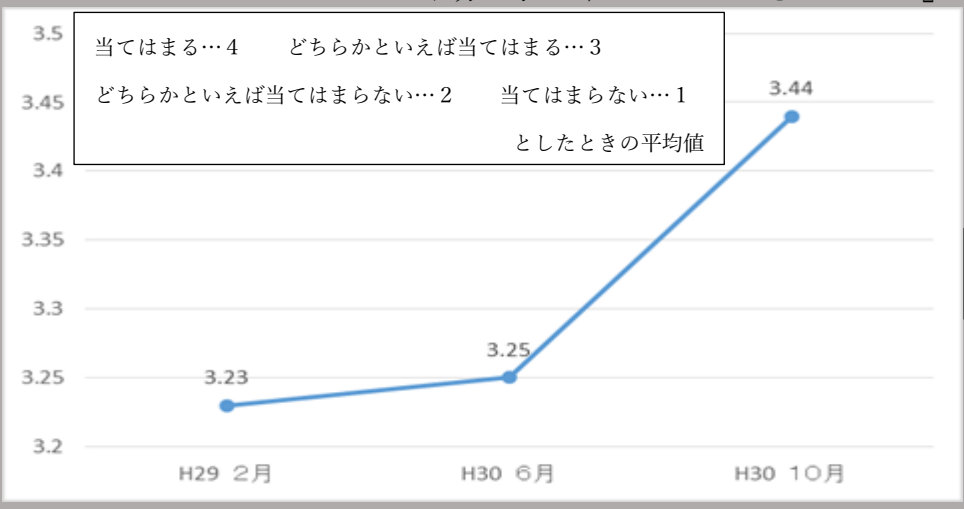
『自分がやるべきことにはきちんと関わります。(勤勉性)』



学級経営の充実や「主体的・対話的で深い学び」の実践により、「自制心」や「勤勉性」などの『非認知能力』が高まってきている。非認知能力の高まりも、学力向上の一因と考えられる。

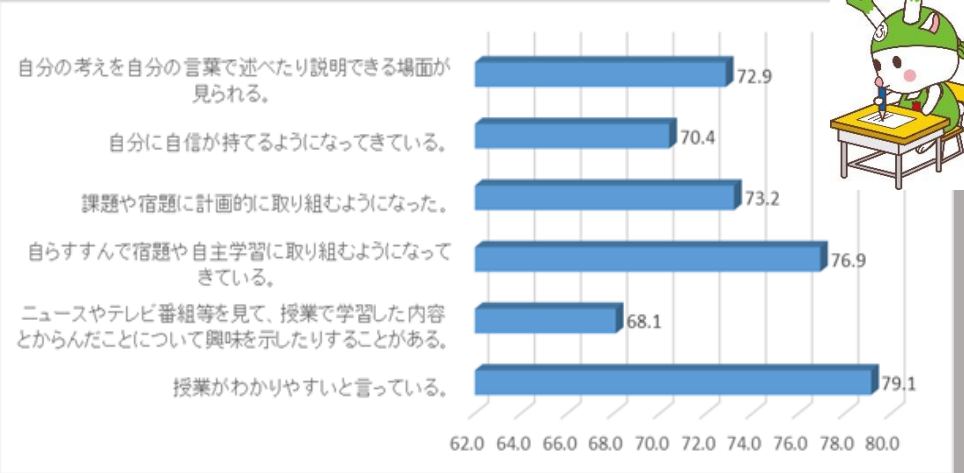
(3)生徒アンケートより(全学年)

『グループ活動にて、先生の話や友だちの発表をしっかり聞き、自分の考えを伝えることができるか?』



主体的・対話的で深い学びの授業改善を全教科で実践することにより、他者とともに学び、自分の考えを他者に伝えることができるようになったと感じる生徒が増えたと考えられる。

(4)保護者アンケートより(全学年)

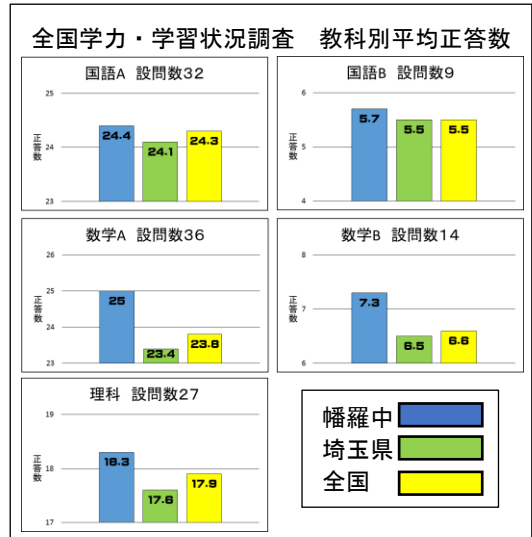


自分の考えを言葉で述べたり、説明したりする学習過程を意図的に設定したことで生徒がより深い学びができるようになったと考えられる。今後も、根拠を明確にして発表したり、記述したりできるように取り組んでいく。

7 研究の成果と今後の課題

【成果】

- 単元の全体を評価できる問題を設定し、単元デザインを考えながら授業をするので、1つ1つの知識・技能の定着を確実に進める工夫ができた。
- A L型の授業を展開するときには、練り上げの型を考え、意図的な発問をすることで、生徒の思考がねらいに向かって収束していった。生徒は活動した充実感を得ながらも、教師の意図した授業展開ができた。
- 研究を通して、各学年の活動や各教科の取り組みを整理することができた。整理した内容をもとに、より良い実践に高めることができた。
- 全国学力・学習状況調査の結果を全国や県と比較すると、どの教科においても高い正答率となっていることがわかった。



【今後の課題】

- ◆研究で取り組んだ様々な実践(単元デザインや授業改善)を継続的に行い、より良い実践につなげていく。
- ◆生徒の実態に即して、基礎的基本的な内容の定着が必要な単元と授業形態の工夫が有効な単元を検討し、単元デザインを考えていく。
- ◆生徒同士の交流をより良いものにしていくために、話し合い方の指導にも力を入れていく。

【ご指導いただいた先生方】

文教大学教育学部教授	会沢 信彦 先生	
深谷市教育委員会学校教育課	課長補佐兼指導主事	浦部 誠 先生
深谷市教育委員会学校教育課	課長補佐兼指導主事	栗田 賢 先生
深谷市教育委員会学校教育課	課長補佐兼指導主事	栗原 秀人 先生
深谷市教育委員会学校教育課	課長補佐兼指導主事	中井美貴子 先生
深谷市教育委員会学校教育課	課長補佐兼指導主事	山下 雅之 先生
深谷市教育委員会学校教育課	課長補佐兼指導主事	新井 知章 先生

【研究に携わった教職員】

平成30年度

校長：島崎 祐子	教頭：金子 宏	橋本 正之	劔持 豊広	金井 典子
宇野 文博	長谷川 守	伊藤 美香	増田 祥子	塚越 善博
高橋 伽奈	印東 公民	久保 賢一	戸井田恵子	松崎 祐果
高野 光子	高橋 健悟	内田 俊夫	根岸 由紀	蜂巣 春香
中谷 治美	田端 和輝	代 英敏	石川 優奈	柴崎真奈美
小嶋 和明	若守しのぶ	石井祐美子	大嶋あずみ	井場 光一
菅沼 早苗	村岡 勉	若林 幸治	マシュー・マイルズ・ワトソン	小暮 永子

平成29年度

校長：大澤 誠一	教頭：江田 昌弘			
堀口 貴秀	山崎 真吾	石川 裕子	木村 邦彦	大井慎太郎
ミチヤン・ラモス				松浦 佳奈